
色んなかたちの...

えふちー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色んなかたちの…

【Nコード】

N9939L

【作者名】

えふちー

【あらすじ】

時に需要とか全く無視の、作者の趣味全開な短編集。
これが本当のえふちーワールドだ！

ある晴れた日、縁側にて。（前書き）

まずは…

ゆかれい

ある晴れた日、縁側にて。

私の目の前で、互いの吐息がかかるほどに近い距離で、彼女は笑った。

およそ今まで見たことのない、共に結界を守ってきた無愛想な彼女の、とびきり眩しい笑顔。

私は、思わずその笑顔に見とれてしまっていた。長い睫毛、少し低めの鼻、柔らかそうな唇。その全てが、私を魅了してやまない。

そんな事を考えていると、すっと、彼女が離れていく。ああ、待って…まだ、まだその美しい笑顔を見ていたいのに…！

気付けば私は、離れていく彼女を抱き寄せ、その柔らかな唇を奪っていた。

ぱちっ、と目が覚める。どうやら私は寝ていたらしい。

「…ふああ」

変な欠伸をして、んーっと伸びる。

はて、なんだかとても良い夢を見ていた気がするが…

「やつとお目覚め？紫」

後ろから声が聞こえた。とても心地良い、聞き慣れた声。

「んあ、霊夢…？なんているの…？」

小首を傾げて、ちよっとふざけてみる。

「ここは私の神社よバカヤロウ」

「痛い！」

割と本気でチョップされた。

「叩くこと無いじゃないのよおう…」

「あ、お茶飲む？」

「飲むー」

すっ、と差し出されたお茶を受け取り、ずずっと啜る。なんだか流されている気もするけど。

「うはあ…んまいわあ…」

思わず脱力。

「うわ、間抜けなツラねえ…」

「なっ、ひどいわね…こんなに美味しいお茶を淹れる霊夢が悪い！」

「だったら飲むな」

「すみませんでした」

「ったく、と言って霊夢もお茶を啜る。うーん…顰めっ面も綺麗…」

「ふはあ…って、何よ？なんか付いてる？」

「霊夢が可愛いから見て痛いつ！！」

またチョップ。霊夢はプロレスラーにでもなるつもりなのだろうか。

「次は刺すわよ」

「刺すだなんて…霊夢ったら…」

「ああ？」

針を構える霊夢。

「すみませんでした」

「よろしい」

霊夢はそっぽを向いてしまう。そのつんとした態度さえ、とても愛しい。と言うか抱き締めたい。

「ねえねえ霊夢」

「あによ」

うわ、目つき悪っ！まさに鬼ね…

と、そんなことを言いたい訳じゃない。圧倒されつつも霊夢に言葉投げかける。

「あ、あのね…抱き締めていい？」

「……………へっ！？」

ボンっ！と一気に赤くなる霊夢。あれ？予想外の反応なんだけど…

「ば、バカね！そんな事別にいつだって…じゃない！抱き締めて欲し…でもない！」

「お、おお…何テンパってるのよ霊ぐふうお」

霊夢の渾身のチョップをまともに喰らい、私は本日二回目の眠りへと落ちていった。

「まったく…この色魔が…」

倒れている紫に視線をやる。なんだか凄く幸せそうな顔をしている。

「も、もう…この、色ボケ、妖怪…っ」

なんて言いながら、じいっと紫の顔を見つめる。

その表情がなんだかとても可愛らしくて、つい。

「そういうことは、断らないで、するものなのよ…」

なんて、漏らしてしまった。

先に言い訳をしておくと、この時、私は非常に混乱していたのだ。だから、私は悪くない。

「あ、あんたが、だらしないから、し…仕方ないから、私がリードして、やるわ」

倒れている紫の顔に、ゆっくりと近づいていく。

近づくとびに紫の、不思議な、でもとても良い匂いが、私をクラクラさせる。

ああもう、いい年のくせして、こんなに、か…可愛いなんて、反則よ！

気付けば私は、その柔らかい唇に、ちょっと強めの口付けをしていた。

ガツン、と、齒と齒の当たる音がした。

ある晴れた日、縁側にて。（後書き）

夢が正夢になったのに、それに気付けない可哀想なゆかりんでした。

どうも、お久しぶりです、えふちーです、（笑）
知らない人は、覚えてぬえ

この短編集は、完全に作者趣味になりますので、過度な期待はしないで下さいね（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9939/>

色んなかたちの...

2010年10月8日12時30分発行